

平成18年度 薬学研究科修士課程選抜入学試験問題

科目番号	科目名	問題枚数	受験番号	氏名
16	臨床薬学 (臨床薬学部門)	No.1 3枚		

下記の入院患者に対する問1～問10の答えを一つだけ選び、解答欄に記入しなさい。(30点)

患者：60歳、男性、大工、一人住まい 身長：170cm 体重：80kg
 アレルギー：(薬物)なし (食物)なし
 現病歴：大酒家で40歳ごろまで毎日飲酒していた。一度、黄疸になったが自然に軽快した。その後も飲酒を継続し、10年ほど前に足のむくみのため病院を受診し、肝臓が悪いので飲酒を止めるように言われたが、特に気にとめずに過ごしてきた。一ヶ月前から腹部が異常に張り出しているのに気付いた。3日前から脱力感と疲労感が強く、便秘が続いており、息苦しさを訴え、隣人から顔の色が黄色を帯びていること、口臭がひどいこと、手の震えが出ていることを指摘され受診した。
 入院時のバイタルサイン：
 血圧130/70 mmHg, 脈拍数78/分(リズムは整), 体温37.2℃
 入院時の身体所見：
 日付と曜日の見当識障害がある。場所、人については認識できる。
 顔面(皮膚の黄染あり、貧血はない)、腹部膨隆(+)で腹囲110cm、下肢の浮腫(軽度あり)、肝は正中で4横指触知(硬い)、手指の羽ばたき振戦を軽度認める、かび臭い口臭あり
 入院時の主な検査所見：
 Na 135 mEq/L, K 3.2 mEq/L, Cl 100 mEq/L, BUN 6 mg/dL, Cr 0.6 mg/dL,
 γ-GTP 184 IU/L, AST 65 IU/L, ALT 45 IU/L, T-Bil 3.0 mg/dL,
 総蛋白 6.0 g/dL, アルブミン 3.0 g/dL, アンモニア 156 μg/dL, プロトロンビン活性値 55%, 血漿フィッシャー比 0.8, HCV抗体陰性, HBs抗原陰性
 上部消化管内視鏡(食道静脈瘤あり)
 入院時処方：
 アミノレバン注射液 1回500 mL 1日2回 朝・夕に2時間かけて点滴静脈注入
 フロセミド(40 mg) 2錠 1日1回 朝食後に服用
 スピロノラクトン(25 mg) 4錠 1日2回 朝食後、昼食後に服用
 ラクトコース(60%シロップ) 60 mL 1日3回 毎食後に服用
 硫酸カナマイシン(250 mg) 6錠 1日1回 就寝前に服用

問1. 本患者の臨床検査値の読み方として正しいものの組合せはどれか。

- a 腎機能低下がある
- b 黄疸を伴っている
- c 高アルブミン血症である
- d 血液凝固機能の低下がある
- e 高アンモニア血症である

1 (a, b, c) 2 (a, b, d) 3 (a, c, e) 4 (b, c, e) 5 (b, d, e)

解答

問2. 本患者について最も推定される疾患はどれか。

- 1 ウイルス性肝炎による慢性肝障害
- 2 脳症を伴う肝硬変
- 3 慢性腎不全
- 4 劇症肝炎
- 5 アルツハイマー病

解答

採点

[]

平成18年度 薬学研究科修士課程選抜入学試験問題

科目番号	科目名	問題枚数	受験番号	氏名
16	臨床薬学 (臨床薬学部門)	No. 2 3枚		

問3. 本疾患に特徴的な臨床症状として正しいものの組合せはどれか。

- a 見当識障害
b 手指の羽ばたき振戦
c かび臭い口臭
d 夜間の徘徊と奇声
e のどの渇き
- 1 (a, b, c) 2 (a, b, d) 3 (a, c, e) 4 (b, c, e) 5 (b, d, e)

解答

問4. 本疾患の原因として、最も多いのは次のどれか。

- 1 C型ウイルス肝炎
2 アルコール性肝炎
3 自己免疫性肝炎
4 薬剤性肝炎
5 ウィルソン病などの代謝性疾患

解答

問5. 本患者に出された処方内容について、処方医に確認すべき点はどれか。

- 1 フロセミドとスピロノラクトンは併用禁忌である
2 ラクツロースは注腸（浣腸）で用いるのが一般的である
3 硫酸カナマイシンは、1日3回毎食後に分服させる
4 高カリウム血症があるので、スピロノラクトンは1日1回に減量する
5 アミノレバンは2時間かけて点滴する必要はなく、点滴時間は30分でよい

解答

問6. アミノレバン注射液の処方目的として、適切であると考えられるのはどれか。

- 1 栄養状態改善のため
2 便秘治療のため
3 ビリルビン排泄を促進させるため
4 消化管出血を予防するため
5 フィッシャー比を改善するため

解答

問7. ラクツロースの処方目的として、適切であると考えられるのはどれか。

- 1 血液凝固機能が低下しているので、出血を予防するため
2 腹水が著明なので、浸透圧利尿を得るため
3 アミノ酸バランスを是正して、肝性脳症の進展を抑制するため
4 腸管の浄化、腸内pH低下などによりアンモニアの吸収や産生を抑制し、肝性脳症の進展を抑制するため
5 低血糖発作を起こさないように糖분을補給するため

解答

問8. 硫酸カナマイシンの処方目的として、適切であると考えられるのはどれか。

- 1 便秘が続いているため、緩下作用を期待している
2 かび臭い口臭があるので、口腔内の殺菌を行うため
3 腹水による腹腔内感染を予防するため
4 腸内のグラム陰性桿菌を殺菌してアンモニアの発生を減少させるため
5 易感染性にあるため、結核感染を予防するため

解答

採点

[]

平成18年度 薬学研究科修士課程選抜入学試験問題

科目番号	科目名	問題枚数	受験番号	氏名
16	臨床薬学 (臨床薬学部門)	No. 3 3枚		

問9. 腹水に対して薬物以外に用いられる処置として、正しいものの組合せはどれか。

- a 穿刺による排液
- b 水分摂取制限
- c 塩分摂取制限

解答

- 1 (aのみ) 2 (cのみ) 3 (aとbのみ) 4 (bとcのみ) 5 (a, b, cのすべて)

問10. 内視鏡で確認された食道静脈瘤の破裂による出血を予防する対策として、正しいものはどれか。

- 1 バソプレシンの皮下または筋肉内投与
- 2 ファモチジンの静脈注射
- 3 塩酸プロプラノロールの経口投与
- 4 特殊アミノ酸製剤の経口投与
- 5 新鮮凍結血漿の点滴静脈注入

解答

採点

[]